

【参考】開講時予定内容

科目名	経済学演習	単位	教員名	仲間 瑞樹
		6単位	開講曜日時限	未定

【主題と概要】

世代重複モデルを利用して公共経済学分野の研究及び修士論文を執筆するために必要な論文輪読と発表、そして修士論文の作成経過を発表することが本演習の主題である。

【到達目標】

大学院修士課程レベルのミクロ経済学、マクロ経済学を理解し、世代重複モデルを自力で扱い、修士論文を作成すること。

英文の学術雑誌を自力で読みこなせるようになること。

【提出課題】

世代重複モデルに関する問題を課題として複数回課す予定。

【課題（レポートや小テストなど）に対するフィードバック方法】

宿題の返却と解説を実施する。

【評価の基準】

出席・修士論文の作成と提出（欠格条件）

宿題の提出 20%

論文輪読に基づく発表 40%

修士論文の作成経過の発表 40%

【履修にあたっての注意・助言他】

経済数学（線形代数、微積分）の知識を前提とする。

学部上級レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識を前提とする。

英文テキスト・論文を利用する。

【教科書】

Blanchard,O.J and Fischer,S.(1989) Lectures on Macroeconomics, MIT Press

Varian,H. (1992) Microeconomic Analysis, Norton.

T.Ihori(1996) Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan

【プリント資料及び参考文献】

必要に応じて資料の配布、参考文献を紹介する。

【授業計画】**【準備学習（予習・復習など）の具体的な内容およびそれに必要な時間】**

発表準備 2時間程度

発表内容の復習 2時間程度

宿題 1時間程度

【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】**【科目の位置づけ】****【双方向授業の実施およびICTの活用に関する記述】**

論文輪読を行う。

クリッカー機能を使う場合もある。

【実務経験の有無及び活用】

特になし

【備考】**【その他（添付ファイル）】**

【授業計画】

2単位15回分の講義を念頭に、合計45回の講義計画であることに注意。

(1回目) から (20回目) 世代重複モデルの論文輪読・発表

(21回目) から (45回目) 修士論文の作成経過の発表と発表内容に関する質疑応答

【卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連】

世代重複モデルを含む経済学の理論モデルの学習、論文輪読から論理的な思考を養うことによって、高度専門職業人として必要な実践的、課題解決的な能力を身につけることに貢献できる。

【科目の位置づけ】

本科目は経済系の分野、とりわけ公共経済学分野かつ世代重複モデルを扱う分野で修士論文を作成する大学院生を対象とした演習となる。

研究棟	II	研究室 No.	
曜日	時間帯		
月	13時30分から14時10分		